

本日はアメリカでは「辞書の日」に制定されています。教育者であり、辞書の編纂に携わったアメリカ人「ノア・ウェブスター」の誕生日が1758年の10月16日であったことが由来です。

#### 1. 英語と米語のスペルの違いを決定づけた人物【ジョンソンとウェブスター】

- 1.1. イギリス近代英語のスペルの確立
- 1.2. 日常英語を定義したサミュエル・ジョンソン
- 1.3. アメリカ語を確立したノア・ウェブスター

#### 英語と米語のスペルの違いを決定づけた人物 < ジョンソンとウェブスター >

イギリス英語とアメリカ英語の違いについては良く耳にするところではないでしょうか。曰く「綴り字」が違う「発音」が違う「単語の意味」が違う等々。個人的には「綴り字」に関してはアメリカ英語の方がシンプルで理にかなっていると思う。 例えば

center (米us) と centre (英GB)                      color (米us) と colour (英GB)  
organize (米us) と organise (英GB)

といった具合に、米語のほうが発音をそのまま綴っている。この綴りの差異は何処から来たのでしょうか。サミュエル・ジョンソンとノア・ウェブスターという人物に辿り着きます。二人はそれぞれイギリスとアメリカで英語辞典を編纂した人物で、ジョンソンはイギリス英語の綴りを、ウェブスターはアメリカ英語の綴りを確立したと言えます。

#### イギリス近代英語のスペルの確立

何となく、大昔から英語は今と同じような英語だったと思っていたが、イギリスの長い歴史の中で英語の発音や綴りは時代によって変化して、近代英語のスペリングが確立したのは18世紀になったことでした。その少し前の時代、15~16世紀頃から印刷技術の発展により新聞や本・雑誌が普及して、人々の識字率は上がっていた。しかし当時はまだ全国共通の単語スペリングは定まっておらず、各地で「自分達の話し言葉の発音に当てはまる綴り」を使って文を書いていたようです。難解な単語や専門用語については辞書があったのでスペリングは統一されていたが、日常の英単語についてはバラバラだったらしい。更に18世紀には、ご近所のイタリアとフランスが素晴らしい辞典を次々と完成させていたのに対して、イギリスは完全に遅れを取る形となっていました。当時ヨーロッパでは『正しい』言語を持っていることが、文明国家として重要だといった考えが支配的であり、信頼のおける辞書の編纂は国家的急務と言っても良いくらいだった。

#### 日常英語を定義したサミュエル・ジョンソン

そんな訳で18世紀、この時代の辞書に不満を持っていたロンドンの本屋業界が、当時の文壇の大御所 サミュエル・ジョンソン Samuel Johnson に辞書の執筆を依頼。

photo by quotpedia English

この腹痛に苦しんでいそうな人がジョンソンさん。ジョンソンは独力で1755年



に英語辞書 A Dictionary of the English Language を完成させた。国家的急務とか言っておきながら一人にやらせてる所に矛盾を感じないでもないけど（そりゃ胃もいたくなるわ）まあそこは置いて。ジョンソンの辞書の特徴は

- ① 4万語の日常語彙を載せた一般的辞書であること
- ② 11万例の用例を用いて語義を明らかにしようとしたこと の二点と言われている。

それまでの辞典は難解語の意味を説明するものや百科事典的な解説を加えたものが主流で、私達が学校で使っているような、日常の言葉を載せたものは無かった。

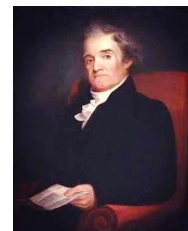
日常的に使われる言葉を広く集め、その意味と用例を掲載したジョンソンの辞書はそれまでの英語辞典とは明らかに一線を画していた。ジョンソンの英語辞書は、その後20世紀にオックスフォード英語辞典（OED）が完成するまで150年もの間、最も権威ある英語辞典であり続けた。

…と言うわけでなんだか凄い人だった、サミュエル・ジョンソン。ところでこの時代、ブリテン島では大母音推移という現象によって発音がダイナミックに変化していた。その結果、綴字と発音の乖離という問題を抱えるようになった。この問題は後のアメリカ英語辞典における綴字改革に繋がっていく。

### アメリカ語を確立したノア・ウェブスター

一方、大西洋を越えた新大陸では1776年にアメリカが独立。それまではイギリス英語に歩調を合わせていたアメリカだが、独立前後から態度を変えてきた。

そのアメリカで、ノア・ウェブスター Noah Webster が1828年にアメリカ英語辞典 An American Dictionary of the English Language を発行した。 photo by Today I Find Out



この辞書の中で、ウェブスターはアメリカ式綴り（center、color等）を発表している。アメリカ式綴りを提唱した理由として、子供向けの本には「ウェブスターは頑固者で、スペルと発音が違うのが我慢できなかった」とか書かれている。綴字と発音の乖離という問題に対するアメリカなりの解決法といった所だろうか。実際のところ話はもう少し複雑で、政治的な意図もあったそうだ。イギリスから独立したものの、まだ不安定な『アメリカ』のアイデンティティ。国として独立するためにもイギリスとは違う自分達独自の文化が欲しい、自分達の言葉が欲しい。そういった人々の想いを背景に、独立した国家のアイデンティティとして「アメリカ式綴り」は受け入れられていった。

実のところ、すでに固定している綴りを変更させるのは容易な事ではないらしい。英語に関しては、ジョンソンの辞書によって綴りはある程度確立されていたので綴字改革は困難が予想されていた。それでもウェブスターのアメリカ式綴りがアメリカ人に受け入れられたのは、アメリカ人の『アメリカ語』に対する想いあってこそだったのだろう。こうしてイギリス英語とアメリカ英語のスペルの差異が確立された。